

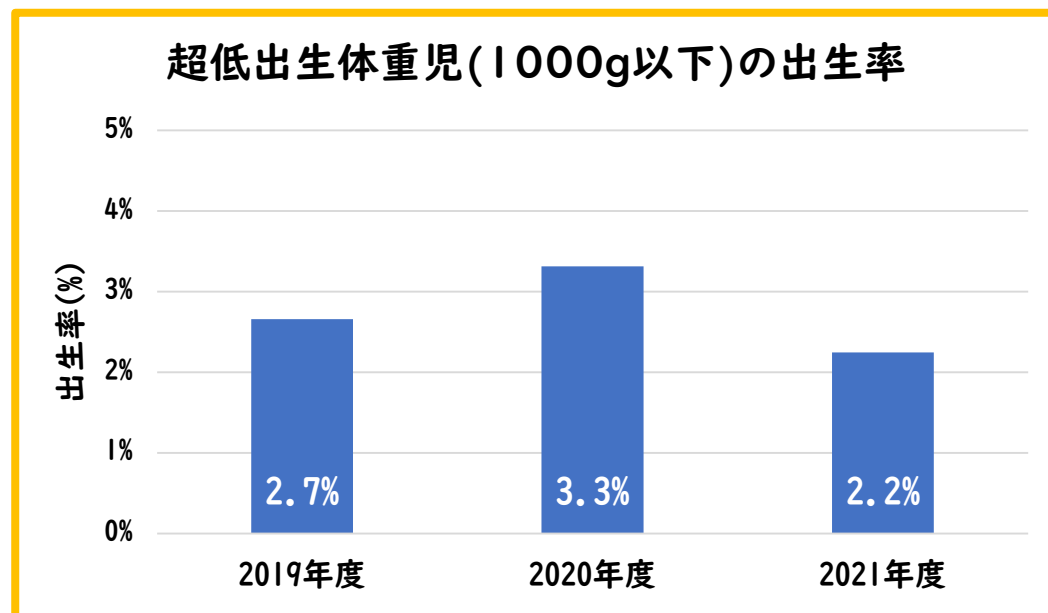
28 超低出生体重児(1000g以下の新生児)の出生率

産科婦人科

◆解説◆

2019年4月1日より当院でGCU(Growing Care Unit :新生児集中治療室(NICU)を卒業した赤ちゃんを継続して治療し、退院に向けて準備を行うためのセンター)の開設が始まることにより、NICUで管理が必要な超低出生体重児をより多く受け入れることが可能と推測されます。この評価項目は、効率的にNICUを管理しているかを評価できるとともに、高次医療機関としての使命を果てしているかの客観的指標となり得ると考えます。

◆当院の実績◆



◆自己点検評価◆

1000g以下の超低出生体重児の出産が可能な施設は大分県では2施設のみです(当院および大分県立病院)。

超低出生体重児の出生率増加そのものは減少してほしいと願っていますが(そのために妊娠管理にも力を入れています)、当院は高次医療機関として県内全域からのハイリスク出産を受け入れており、周産期センターとしての稼働は増加しています。

2021年度は前年に比べて減少していますが、大分県全体の分娩数も減少していることに加え、入院管理を行うことで1,000g以上に発育させての娩出も増えたことにより、割合としては減少した可能性が考えられます。

◆定義◆

当院での総出生新生児数に対する超低出生体重児(1000g以下の新生児)の割合